



「撮られ慣れてないから、どうしたらいいかわかんないね」と笑うオーリーブのみなさん。(左から)制作部の五十嵐寛文さん、代表取締役の橋本道春さん、取締役の工藤佐規子さん、制作部主任の佐藤徹さん。他にもスタッフは、会社立ち上げメンバーの工藤拓也さんを含め、計6名。



株式会社オーリーブ

住/酒田市新橋1-14-12-2F
電/0234-28-8469
HP/http://www.olivefreaks.com

「最高の映像で世界へ」「笑顔あふれる時間を」。仕事を理由に都市部へと移り住む若者が増える一方で、庄内には、この地で働くことを真剣に楽しむ大人たちがいます。

た工藤拓也さん・佐規子さん夫妻は、もとは結婚式の映像制作を依頼してくれたお客さんだ。「短時間で見られるわけがないのに、見せられるものは全部持って回っていましたね」と立ち上げ当初の営業の様子を振り返る佐規子さん。撮影技術も営業ノウハウもないゼロからのスタートは大変なことも多かったはずだが、「それも含まれていましたね」と立ち上げ当初の営業の様子を振り返る佐規子さん。撮影技術も営業ノウハウもないゼロからのスタートは大変なことも多かったはずだが、「それも含まれていましたね」と立ち上げ当初の営業の様子を振り返る佐規子さん。

「世界一の映画が撮りたいと思っただけです」。代表取締役の橋本道春さんは、会社設立の経緯をこう話す。酒田市にある株式会社オーリーブは、PVやCMそして映画なども手がける映像制作の会社だ。結婚をきっかけに、福島から遊佐町に移住した橋本さん。機械の趣味で結婚式のプロフィール映像をつくり始めたところ好評で次々と依頼が来るようになり、会社を辞め映像制作の世界へ飛び込んだ。橋本さんと一緒に会社を立ち上げ

挑戦を楽しみながら、映像で庄内から世界へ

しており、山形ふるさとCM大賞を受賞した実績も。「東京でも庄内でも、いい映像はつくれる」と橋本さんは自信を持って言う。その言葉に深くうなずくのは、制作部の五十嵐寛文さん。首都圏で映像制作会社を探したが見つからず、鶴岡に戻りラーメン店で働いていたときにオーリーブを知り入社した。「こんな高いレベルで映像をつくれる会社が地元にあるとは思いませんでしたので、本当に嬉しい出会いですね」。

最後に進路についてのアドバイスを伺うと、「二転三転しながらも、これだと思ったことをやり続けていけば、好きなことを仕事にできると思います」と橋本さん。「東京とか仙台とか場所を限定せず、人生楽しいと思えるようなことを一生懸命探してほしいですね」と佐規子さん。映像で、庄内から世界へ挑戦したいと思ったら、門を叩いてみるというだろう。

Cradle高校生編集部が行く
スゴハイ⁶ 特別編
SUGOI highschool students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁

SUGOI REPORT
スゴ★レポ

高校生編集部が
地元企業の魅力発見!



「世界一の映画が撮りたいと思っただけです」。代表取締役の橋本道春さんは、会社設立の経緯をこう話す。酒田市にある株式会社オーリーブは、PVやCMそして映画なども手がける映像制作の会社だ。結婚をきっかけに、福島から遊佐町に移住した橋本さん。機械の趣味で結婚式のプロフィール映像をつくり始めたところ好評で次々と依頼が来るようになり、会社を辞め映像制作の世界へ飛び込んだ。橋本さんと一緒に会社を立ち上げ



「庄内は飛ばせるところが多いので、首都圏よりも活用できるんです」。ドローンでの撮影も、早くから手がけてきた。

た工藤拓也さん・佐規子さん夫妻は、もとは結婚式の映像制作を依頼してくれたお客さんだ。「短時間で見られるわけがないのに、見せられるものは全部持って回っていましたね」と立ち上げ当初の営業の様子を振り返る佐規子さん。撮影技術も営業ノウハウもないゼロからのスタートは大変なことも多かったはずだが、「それも含まれていましたね」と立ち上げ当初の営業の様子を振り返る佐規子さん。



「庄内にもおもしろい大人たちがたくさんいることを、高校生にも伝えていきたいですね」。

「最高の映像で世界へ」「笑顔あふれる時間を」。仕事を理由に都市部へと移り住む若者が増える一方で、庄内には、この地で働くことを真剣に楽しむ大人たちがいます。

「素人」だが、そのことが彼らの強力な武器にもなっている。地域に根差した映像も多く制作

「素人」だが、そのことが彼らの強力な武器にもなっている。地域に根差した映像も多く制作



結婚式場「グランドエル・サン」の運営をメインに、さまざまな事業を展開する株式会社エル・サン。「楽しさも大変さも分かち合いながら、お客さまと共に人生の一大イベントをつくり上げられることが何よりのやりがいですね」と仕事の魅力について話すのは、入社6年目の佐藤将隆さん。新米ウエディングプランナーとして日々奮闘中だ。定期的なミーティングを行い、結婚式のための一切の準備を、約半年間かけて新郎新婦、両家の家族とともに進めていくのがウエディングプランナーの仕事。「イエスマンにならない」というのが佐藤さんの仕事をする上での心がけだという。「主役が新郎新婦さんであることは間違いないので、彼らが喜ぶことはもちろん大切なんです、それよりも大切なのは彼らも含めさまざまな世代や立場のゲストみんなが笑顔になれること。一部のメンバーだけ盛り上がるって、他のゲストが置いてけぼりになることは避けなければい



(左から)ウエディングプランナー 佐藤将隆さん、パンケットサービス担当 五十嵐丈二さん。自然な立ち姿が画になるのは、日々の仕事の賜物。

笑顔と喜びの時間を 生み出すのが、私たちの使命

けません。ご要望を最大限かなえつつ、内容面・予算面の折り合いをつけていくのが一番難しい部分ですね。



「佐藤さんをお願いしてよかった」と言ってもらえることが、何よりの喜びだという。

佐藤さんの話を真剣に聞くのは、入社1年目の五十嵐丈二さん。現在はパンケットサービス担当として、結婚式をはじめパーティー全般の会場準備や進行中の配膳業務にあたっている。将来的には、ウエディングプランナー職に就きたいと考えているそう。だ。「もともとウエディング業界に興味があったわけではないんですけど、会場で皆さんの喜びを肌で感じるにつれ、やりがいや面白さが大きくなってきています。目標実現のためにも、



快適な時間を過ごしていただくために、注ぎに行くタイミングやテンポにも気を付けているのだそう。

まずは日々の細かな作業一つ一つに心を込め、お客さまに喜んでいただけるようにしていきたいです。グランドエル・サンでは、年2回ブライダルフェアを行っている。結婚式を予定している方々向けに、料理やドレス、模擬結婚式などを見せながらエル・サンでのサービスを紹介するイベントだが、



株式会社エル・サン

住 鶴岡市東原町17-7
電 0235-24-4633
HP <http://www.el-sun.com>

業界に関心がある高校生も見学に来ているという。「エル・サンでの仕事の内容を知るヒントにもなると思うので、気軽に参加してほしいですね。美味しい料理も食べていただけますし」と笑顔で話す佐藤さん。お客さまの人生の一大イベントに、大きな喜びと笑顔で花を添える仕事。東京でも庄内でも、そのやりがいの大きさに変わりはないようだ。

編集後記

今回の取材で、今までの仕事に対するイメージが一変しました。また、働いている方々の仕事に対する思いを伺ったり、仕事の現場や撮影機器を見せていただいたりなど、貴重な経験ができました。進路選択についていただいたアドバイスには、さまざまな発見があり、自分の進路選択にも活かしたいと思いました。(ほのか)

今回は地元企業の取材でした。接客に携わる方のお話を聞き、どんな思いで仕事をしているのかを知ることで、自分が普段当たりまえにしているサービスに対する見方が変わりました。風邪の季節でいつもより人数が少ない中での取材でしたが、協力し合い、記事を書き上げることができました。(みく)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

鶴北高新聞部と一緒に「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先

Cradle事務局
info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=本間 聡美、株式会社エル・サン
協力=鶴岡北高等学校



持って帰る?

ブライダルフェア
来ませんか?

料理
おいしー!

風邪に負けるな!
二人でガンバレ!

おっしょく
お隣します。

パンケットサービスの
スガ様見!

二人とも、
立ち居振る舞いが
カッコいいー!